

高浜市誌編さん委員会（第1回）

日 時	平成28年11月9日（水）午前10時00分～11時30分		
場 所	高浜市役所 第5会議室（4階）	傍聴人数	0名
出席者	委員	神谷純一 曲田浩和 石原順二 石川伸 村松輝一 後藤恵理 宮田克弥 尾崎ヒロミ 神谷坂敏	
	行政	市長 吉岡初浩 教育長 都築公人	
	事務局	こども未来部 文化スポーツグループ 同 同	部長 中村孝徳 リーダー 鈴木明美 主事 日吉康浩 主事 川合由希
		株式会社ぎょうせい 土屋和重	
次 第	1 あいさつ 2 辞令交付 3 自己紹介 4 議題 (1) 委員長・副委員長の選出 (2) 会議及び会議録の公開 (3) 編さん基本方針（案）について 5 その他		
資 料	資料1 高浜市誌編さん委員会 委員名簿 資料2 高浜市誌編さん委員会規則 資料3 高浜市誌編さん委員会会議及び会議録の公開について(案) 資料4 『高浜市のあゆみ』編さん基本方針（案）		

平成28年度高浜市誌編さん委員会【第1回】

平成28年11月9日（水）

1. あいさつ

【都築教育長】 今回の市誌編さんは40年ぶりとなります。前は昭和51年3月の発行なので、随分このような仕事が進んでいなかったこととなります。市誌は、市の歩みを正確に記録するというのが目的の1つなのですが、やはり本棚に立てておくだけのものではもったいないと思います。

ですので、この編さん委員会で市民の誰もが、もっと言えば子どもたち、小学生が手にとって読んでみたいと思えるような市誌につくりかえていただけたらと私自身は思っております。息の長い委員会になると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 辞令交付

3. 自己紹介

4. 議題

(1) 委員長・副委員長の選出

【都築教育長】 資料2にあります高浜市史誌編さん委員会規則第3条第1項に「委員会に委員長1人、副委員長1人を置く。」とあり、第2項には「委員長及び副委員長は、委員の互選による。」とあります。選出方法は指名推選又は投票による方法があるかと思いますが、いかがいたしましょうか。

【委員】 指名推選がよろしいかと思えます。

（「異議なし」の声あり）

【都築教育長】 指名推選により委員長及び副委員長を選出いただきたいと思いますが、どなたか推薦をお願いします。

【委員】 委員長には、高浜で生まれ育ち、かつ教育界では長くご活躍をされ、現在、文化財保護委員長を務めておられます神谷純一さん、そして、副委員長には、市誌編さんに当たっては専門的な見地からご助言をいただくことが大切だと思いますので、日本福祉大学教授の曲田浩和先生を推薦させていただきます。

【都築教育長】 いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【都築教育長】 それでは、委員長には神谷純一様、副委員長には曲田浩和様に決定させていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【都築教育長】 それでは、就任に当たりまして、神谷純一様と曲田浩和様から一言お願いしたいと思います。

【神谷委員長】 皆様からご推薦いただきまして委員長を務めさせていただきます。今日お越しの皆様のお力をお借りして進めていきたいと思っておりますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

【曲田副委員長】 高浜のことをあまり知らない人間が副委員長をと思ったのですが、私自身は、いろんな形で市史等の編さんに携わっておりますので、そういった見方でお話をさせていただければと思っております。

聞くとところによりますと、前回の『高浜市誌』がつくられてから40年ですが、その40年前の資料があまり残っていないとお聞きしております。どこまで市誌に反映できるかということはあるかと思えますけれども、おそらく本に掲載する内容の何倍も、何十倍もの資料が集まってくるだろうと思えます。それを残していくことも後世にとっては役に立ちますし、あと50年、100年すると、それが大事な資料になっていくかもしれません。そういったことも含めてお話をさせていただきながら、皆さんと一緒に、今住んでいる市民の気持ちを酌みながらつくってまいりたいと思えます。何分よそ者ではありますが、よろしくお願いいたします。

(2) 会議及び会議録の公開

【神谷委員長】 それでは議題2、会議及び会議録の公開について(案)を事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 資料3にもとづき説明)

【神谷委員長】 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問のある委員は挙手をお願いいたします。

【委員】 全て公開だといっても、どれだけ市民の関心があるかわからない。傍聴者がゼロかもしれないし、たくさんあるかもしれないわけですが、議題によっては、かなり突っ

込んだ議論になり、市民にとってはこっちがいい、いや、市にとってはこうがいいのではないかなったとき、委員として発言をする際、公開制にすると少し躊躇するというようなことがないかなと思います。

【事務局】 原則として公開という形で、もし非公開にしたい場合は、委員会の中で協議して、非公開にすることを決めていただく形でよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】 市のホームページ等で公開するという形ですが、その内容を、例えば、フェイスブックの自分のページや、それから市役所のフェイスブックもあるので、そういうところで公開しても大丈夫なのでしょうか。

【事務局】 ホームページなどで公開したもののリンクを貼るというようなことは、事前に言っていれば問題ないと思います。

【委員】 貼っても、どこから持ってきたかを明記すればいいのではないかな。

【神谷委員長】 それでは、会議も、会議録につきましても、原則として公開していくということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、原則として公開していくということでご承認いただけたということできたいと思います。よろしくをお願いします。

（3）編さん基本方針（案）について

【神谷委員長】 それでは議題3、編さん基本方針（案）について、事務局よりお願いします。

（事務局 資料4にもとづき説明）

【神谷委員長】 何かご意見、ご質問などがありましたらお願いします。

【委員】 これは冊子のみということですか。それとも、DVD版も考えているのですか。

【事務局】 デジタル版に関しては今後検討していきたいと考えます。

【委員】 過去の『高浜市誌』は、一般市民にも販売されたということですよ。

【事務局】 現在も販売しております。

【委員】 部数の1,000部というのが妥当な数字なのかわからない。かつての市誌は当時どのくらいつくって、どのくらい売れたのか。

【事務局】 販売するにあたっては、かかった印刷経費を部数で割って、適正な価格を

設定するといった調整が必要となります。状況も見定めて発行部数なども考えていきたいと思えます。

【委員】 今日招集された私たちは市誌編さん委員会、曲田先生は編集委員長ということですが、他の編さん委員も編集委員会と兼ねてということなののでしょうか。

【事務局】 編さん委員会と編集委員会は、全く別組織になります。曲田先生は編集委員会の代表という形で今回の編さん委員会にはご出席いただいております。編さん委員会の委員さんが編集委員会にも出席することはありません。

【曲田副委員長】 編集委員というのは、実際執筆に当たっていろいろ作業していくところです。ただ、大局で物を考えたり、この方向性でということについては、やはり皆さん方の日ごろの活動のお立場で見たときには、こういうことはそぐわないとか、もっとここは積極的にというようなことが出てくるだろうと思えます。細かなところは私たちにお任せいただきながら、大局的なところでご判断いただいたり、ご意見をいただくという、そんな形でお考えいただくとよろしいかと思えます。

【委員】 先ほどから様々な話が出た中で、市誌が家にあるが読んだことはない、図書館にもあるが開いたことがないという状況があります。また、過去40年間つくられなかったということもふまえると、なぜ今これをつくらなければいけないかという議論は、誰がどこでされたのでしょうか。私たちが編さん委員会に招集されても、つくることが前提の議論になっている感を拭えません。

新しい市誌をつくることの意義は十分理解した上での発言ですので、これを否定するものではありませんが、そのあたりを明確にしないと、逆に市民の方からすると、読みもしないものに、これだけの経費と時間をかけてやるべきものなのかという意見が出てくるでしょう。また、先ほど話が出たように、47,000人も人口に対して1,000部、47人に1人にしか行き届かない。公的な場所へも配るのでしたら、100人に1冊程度しか配られないこともありうる。このようなことに対して、どういったお考えであるかを、大局的なところでお話いただけたらと思えます。

【事務局】 なぜつくるのかということですが、冒頭の編さん目的のところにありますように、今つくらないと、様々な記憶・記録がなくなってしまうというところの危機感からこれをつくるということです。

なお、過去につくった町誌ですとか市誌というのが、町誌の第1巻、昭和41年につくったものが高浜町、吉浜村、高取村が合併して高浜町として誕生した60周年という記念

の節目に発行しています。また昭和51年に発行された『高浜市誌』は、市制50周年記念ということで発行されました。このような流れもありまして、市制50周年という節目で、この40年の歩みをしっかり残していかないと消えてしまうという危機感から、編さんを行っていききたいということです。

【委員】 市誌をつくることは、データベースをつくるという認識です。これを今後活用するためには「タカハマ！まるごと宝箱」など、他の事業と連携しながら、多岐にわたる活動にしていかなければ、有効に活用することができません。データベースの有効活用とは、SNSやウェブ上での公開といった、現代に合わせた使い方を始め、子ども向け絵本や紙芝居にしてみたり、お年寄りが語り部になるような業務をつくっていくということも考えられます。今回つくる市誌が、市民による地域おこし活動のツールになるものにならないといけないと感じています。新しい市誌を今後有効活用するために、「タカハマ！まるごと宝箱」との連携など、多岐にわたるような活動にしていかなければ、また本棚の一部となってしまうたり、古本として売られてしまいかねません。先ほど言われたことを大きく掲げていかないと無駄使いととられてしまいます。市制50周年だからということのみを前面に出すのは非常に危険だと思いますので、そのあたりをご配慮いただければと思います。

【神谷委員長】 表現する方法が増えてきている時代ですし、各年代にとっても、かつての市誌は、それほど広い年代にわたって読まれたということがないので、活用できる方法をもう少し厚く検討していけたらと思います。

【委員】 1点だけ意見として申し上げたいと思います。3ページの構成・内容の中の第4章の中に、公共施設建設という表現があります。発刊予定である平成32年度9月ごろには、高浜小学校にホール機能を持たせた体育館と、公民館機能を持たせた地域交流施設等もつくる予定でありますので、この中に、公共施設建設とその統廃合というふうな内容を盛り込めたらいいと思っています。

【委員】 3ページの「現代の高浜」についてですが、昔は海苔の養殖や養鰻が盛んに行われていました。そういったかつての場所が埋め立てられて木材コンビナートになり、今は工業地帯として、ハイテク産業が進出している、そういった流れを入れるといいかと思います。

【事務局】 具体的にどういった章立てにしていくかは、部会でも議論していきますので、今回はキーワードのみを提示しています。

【委員】 今回、様々なことを掘り下げて探していくと、新しい情報が得られると思います。私は今、デイサービスでのアーカイブスや報告会を実施し、回想法につながることを行っているのですが、そのような情報もまた取り込みたいと思います。

それから、冊子の利点は100年後にも見られることです。しかし、ウェブやCDは100年後に見られるかどうか不明です。ですので、本が一番ベストだと思います。

【曲田副委員長】 先ほどのお話にありましたが、「なぜつくるのか」ということは非常に大切なことです。いろんな資料を集めて、SNSやデータで公開してしまえば、それでもういいじゃないかという話になってしまうこともありますので、どのような理由で編さんをするかというところに重みがあると思います。ストーリーがちゃんとありますので、それをきちんと伝えていかないといけない。モノの持っている価値は変わらないのですが、物語をつくることによって、それをより開花させるといいますか、50年後だったら今の考え方は違っているかもしれないですが、私たちが今生きているこの時代の中で編さんをしていき、今を子どもたちに伝えることが非常に大切になってきます。どのように活用するかを皆さんと一緒に考えて、ちゃんと見てもらえる、使えるものにしていかないと意味がないと思っています。

5. その他（市長あいさつ）

【吉岡市長】 今日は皆様、お集まりいただきましてありがとうございます。今、様々なご意見を伺っていましたが、50周年だからつくるということではありません。私どものまちは、実は私が就任してから周年事業は1つも行っていません。50年前に若者だった人が、現在は70、80という年になっていく中で、行政誌であれば幾ばくか資料は残りますが、産業や人にまつわるものはなくなってしまいます。例えば昔、土管工場が高浜にありました。土管の組合がなくなって瓦に変わりました。土管の歴史はここで消えてしまうのです。かつての資料は、今はもうさほど残っていないでしょう。

そのような資料は人とともに存在して、所有者が亡くなったりすると、所有していたものは消えてしまいます。もっと言うと、こんなことはあってはいけませんが、伊勢湾台風のような災害があれば、その時点でたくさんの資料が消えてしまいます。

そのようなこともあって、いずれかの時期に、高浜市の資料がまだ残っているうちに、それを語り継いで、これから高浜に住んでいく人たちに何らかの形で残していく必要があると思います。それを考えると、50年というのが1つの時期であるということが、取り

組むきっかけになった大きな要因です。

もう一つ、活用のお話がありました。「タカハマ！まるごと宝箱」という事業で、本当は何をしたかったかという、今回のお話でも出てきたデータベースをつくりたかったのです。毎月実施していますが、本当は行政主導でやってはいけないという話をしています。データベースをつくり、それをどういう活用をしていくかも皆さんで話して、有効な、こんなことを伝えたいね、どういうふうに伝えたいねということがそこで語られることが大事なのです。それが活用されて、活動が広がっていけば、それは非常に重要な財産になっていくのだらうと思いますが、まずはベースをつくること、そして今のこの時期が、これから高浜市が発展していく中で、ちょうど節目の時期に当たっていくのだと思います。

ご承知のように、瓦組合の組合員さんが半減、3分の1というような状況、養鶏組合は解散してしまいました。こういったことが目の前にありましたので、やはりこの時期を捉えてやっていくということでもあります。

以後は、ここにおいでの皆様がそれぞれの立場で関わっていただく中で、先ほど曲田先生もおっしゃったように、高浜を知る方たちから何を編さんに入れたらいいのかご意見をいただくというのは重要なことと思いますので、何卒ご協力をいただきまして、市誌というよりも、高浜の歩みが俯瞰できるように、そして、子どもたちが高浜ってこんなまちだったのかと、我々がこんなまちにしていこうという思いが描けるような、そんな委員会になっていただけたらと思っています。